

新型コロナウイルスについて

世界的な感染拡大が問題となっている「新型コロナウイルスによる感染症」ですが、この難問を今回のCBCA NEWSで取り上げます。執筆時点で正しいであろうと思われる事実を基にしつつ、推察を加えた文章内容となります。ご留意ください。

✚ 新型コロナウイルスの特徴

まず、[2/24「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議による見解」](#)から、ウイルス感染に関する特徴を列挙してみます。

- 感染した人は、ほとんどが無症状ないし軽症であり、既に回復している人もいる。
- 一方で、一部の方は、重篤な肺炎症状を呈し、回復までに時間を要する。高齢者・基礎疾患を有する方は重症化するリスクが高い。
- 咳やくしゃみなどの飛沫感染と接触感染が主体だが、咳やくしゃみなどがなくても至近距離で感染する可能性が否定できない。
- 無症状や軽症の人であっても、他の人に感染を広げる例がある。

これらを分かり易く表現すると、

「感染した場合、多くの方は大した病気とはならないが、一部の方は危険な肺炎を引き起こす。感染力はそれなりに強く、見た目は健康そうな人からもウイルスをうつされる可能性がある。」といった感じでしょう。拡大防止が難しい、厄介な感染症といえます。

報道では、発症者を中心にPCR検査で陽性となった方々を感染者として伝えていますが、感染力の強さやPCR検査の実施が限定的であること、また感染ルートが特定できない患者が増えてきていることから推察するに、日本では既にかかなりの人数の方が、発症こそしていないが感染している可能性が高いのではと思われます。

✚ PCR検査の有効性について

PCR検査の実施をもっと増やして感染者を特定し、感染拡大の防止に努め、国民の不安を払拭すべきといった論調が目立ちます。ところが、PCR検査の実施数は依然として限定的で、希望者が誰でも検査を受けられるといった状態には程遠いものがあります。背景には何があるのでしょうか。

参考になる記事があるので、ご紹介します。

[BuzzFeed「新型コロナ、なぜ希望者全員に検査をしないの？ 感染管理の専門家に聞きました」](#)

記事の要点を挙げると、次のようなものになります。

- 新型コロナウイルスは、感染者のウイルス量が少ないことなどもあり、PCR検査の陽性陰性の精度が30%~70%程度と高くない。
- 新型コロナウイルスのPCR検査は、インフルエンザ検査などと比べて時間も人手も手間も多く掛かる。
- 検査で陽性が出ても、現状治療方法が無い。
- 以前は、陽性者を洗い出して入院させて、初期の段階で芽を摘んでしまおうという封じ込めの目的でPCR検査を用いていた。

- 感染ルートが判別できない感染者が発生していることから、現在は検査の目的が「封じ込め」から、重症患者や重症化しそうな患者を早く見つけて死なせないことになってきている。

こうしたことから、感染症医療スタッフの現場からは、無症状の人や軽症の人にあまり意味のない検査を行うより、危険な患者を救うことを優先したいとの意向があるようです。

我々が認識する以上に、既に医療現場はひっ迫しているのかもしれません。

✚ 株式市場への影響

過去にも、「SARS」や「AIDS」など、新たな感染症の流行が世界的ニュースとして取り上げられることはありました。しかしながら、感染症のニュースが株式市場を大きく揺るがすことは、まずありませんでした。なぜなら、感染症の流行が経済活動に与える影響は、限定的かつ一時的なものに留まることが殆どだからです。

今回も、市場は当初、感染拡大の状況を注視しつつも、影響は限定的かつ一時的なものに留まると考えていました。ところが、

- 中国の感染規模とスピードが想定を大きく超えるものであったこと
- 感染拡大防止のための措置により、一時的にせよ中国経済の停滞が決定的であること
- 他国への感染拡大が、日本や韓国など隣国に留まらず、欧州や中東など遠方にまで及んだこと
- 米アップル社を始め、感染拡大が企業業績に少なからぬ影響を与えることが伝えられたこと

などから、2月中旬以降、過去とは様相が異なると考える投資家が増え、2月24日にNYダウが1000ドルを超える下落を見せ、その後も大幅な下落相場が続くなど、市場にも大きな影響を与えることとなりました。

今後についてですが、感染拡大がいつ収束に転じるかが最大の注目ポイントとなります。

なかなか収束しない事態となったなら、市場のリスク回避的な動きが長引く可能性もあるでしょう。心配なのはアメリカでの感染拡大です。何事もスケールが大きな国なので、感染拡大すると規模も影響も日本の比ではありません。

ただし、感染拡大がピークを過ぎたと判断されたなら、先読みをする市場のことですから、急速に値を戻す動きを見せるかもしれません。対応が難しい相場になりそうです。

さて、気掛かりなのは、東京オリンピックが予定通り開催されるかどうかです。安倍総理は、2月28日に突然、学校の一斉休校に踏みきました。オリンピック開催までになんとしても事態を収拾したいとする、強い意志の表れでしょう。

しかしながら、既に感染が世界規模となっていることから、単に日本での感染状況だけを見て、世界中の人が大量に移動し一か所に集まる大規模なイベントを行うか否かを判断することは難しいと思われれます。世界的な感染の急速な鎮静化が図られた場合を除き、極めて難しい政治判断が必要となるでしょう。

一般社団法人全国経営診断士協会

〒112-0004

東京都文京区後楽 2-2-17 NBD 三義ビル

TEL : 03-3812-8211 FAX : 03-3812-8213

mail@cbca.jp

http://www.cbca.jp

お問い合わせ先